

4-3. 幼稚園との観察会を楽しんでいます

1987年、探検隊は誕生しました

私たちのフィールド、立田山は熊本市の市街地にある、こんもりとしたどんぐりの森です。活動は35年あまりを数えます。

活動の柱は自然観察会で、毎月1回、ファミリー中心で、どんぐりやきのこ、昆虫や水辺の生きもの、七草や野鳥等、四季の身近な自然をテーマに実施しています。この観察会は、発足当初から、大人から赤ちゃんまでどなたでもどうぞ！というスタイルで実施してきました。もちろん、乳幼

児も多く参加され、自然観察指導員自身も、子育て中は家族で参加します。

また、依頼を受けて「観察指導」も行っています。当初は、小学校や地域団体からの依頼が多かったのですが、幼稚園、保育園からもお声がかかるようになりました。2007年に始まった幼稚園との観察会は現在も続いています。

幼稚園との観察会はこんな感じです

まず、園の近くの河原をぞろぞろと散歩することから始まりました。そのうちに、立田山をご案内することになりました。年に数回（春や秋）、平日の依頼が多く、対象は4歳児（年中さん）や5歳児（年長さん）。時には、保護者にも参加を呼びかけたいとの依頼を受けて、週末に親子の観察会に出向くこともあります。参加者が多い時は、探検隊の自然観察指導員が所属する「自然観察指導員熊本県連絡会」が応援してくれるので、忙しい園の希望の日に実施できます。

【準備】

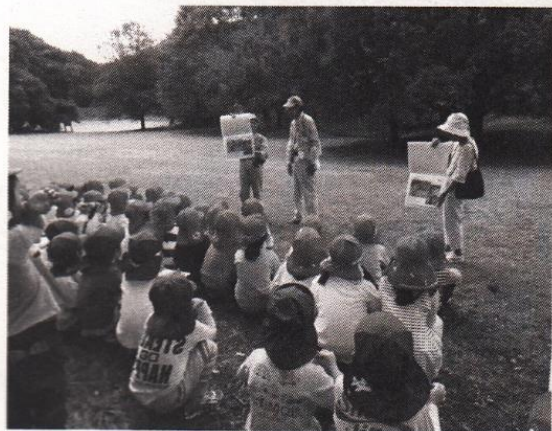
園の先生から希望日時と対象者、テーマ等を伺って「指導計画書」を作成することから始まります。観察コース、班編成、タイムスケジュール、準備物、雨天時の対応等を打ち合わせ。観察会の1週間前に、スタッフで下見をし、観察ポイント（どんぐり、タンポポ、クモ等）の写真と名前が入ったB5サイズの「自然探検シート」を人数分準備します。雨の日は園内で実施することもしばしば。紙芝居や自然遊び、工作などを行います。

【当日】

①導入は「紙芝居」。ムカデやマムシなど危険な生きものを知らせたり、「いろいろな形のどんぐりがあるよ」と、自然への興味を高めます。

②班ごとの自然観察がスタート。子どもたちに自然探検シートを配って、「今日はどんな生きものに会えるかな？」。

乳幼児期の子どもたちには、初めて出会うものばかり。すたすた歩けば10分程度のエリアを、高い木を見上げ、草むらで虫を探し、競い合うようにどんぐりを拾い、クスノキの葉っぱの臭いをかぎ、森の声



に耳を澄ませ、時には野イチゴを味わって…。モグラ塚！を発見（モグラがトンネルを掘った土を、地上にこんもりと積み上げたもの）。「モグラさん、いるかな？」、そ〜っと枝を入れる子どもたち。じっくり観察した頃合いを見て、「よく見つけたね」と、自然探検シート中の生きものの写真に、スタンプ（シャチハタ）を押してあげます。



- ③工作が得意なスタッフがいて、希望があれば工作をプラスします（親子での観察会で希望が多いです）。キットで準備して、親子で組み立てて完成。工作も自然遊びの一つですので、なぜ、こんな木や木の実、竹や葉っぱを使うのかも、気づいてほしいと思っています。

こんな事に心がけています

観察会では、日頃、園庭では出会えない自然に触れてほしいと思っています。

- ・ 落ち葉をふむ音、足に響く感触！
- ・ 枯れ枝の折れる音！
- ・ 日なたと日かげを、交互に感じる！
- ・ 園庭にある樹木と森の樹の迫力の違い！
- ・ 自然に興味を示さない子ども、本物の生きものには、すぐに食いつきます！
- ・ 何かいるのかな？と想像力を刺激します。「ガサガサ」とタイミングよく音がしたらナイス！
- ・ 子どもたちが見つけたものを題材に。感想を聞いてみます！
- ・ 多少のでこぼこ道を歩く事で、バランス感覚が！
- ・ そして、草遊びができれば最高！

乳幼児期の子どもたちは何にでも「興味深々」。おもしろいものが見つかり「見て見て！」。子どもたちの鋭い感性に、自然観察指導員が驚かされる場面もしばしば。「これなあに？」「どうして？」って聞かれても大丈夫。一緒にシェアして、「不思議だね」「とりあえず名前をつけてみよう」とは言いながらも、思わぬ展開ばかり。どんぐり探しに出かけよう、と

声をかけても足元のミミズたちで
大騒ぎ？ある時はアリさんの行列
をどこまでもたどって……。でも、
自分たちで見つけた自然、しばら
くお付き合いします！



オオバコの茎で引っ張りっこ

「乳幼児期からの自然保護教育」の大切さを見つめなおしています

様々な世代のみなさんと観察会を重ねる中で、乳幼児期から始めた方が
良い、と思う場面もしばしば。原っぱに座った赤ちゃんは、わからないな
りに葉っぱの先をつんつんしたり……。乳幼児期の子どもたちは、すーっ
と自然の中へ吸い込まれていきます。そこで、小さな心がそっと揺り動か
されているようです。自然観察指導員も遅れないようについていきます。
四季のフィールドで培ってきた、様々な生きものが暮らす自然を見つめる
眼、その息づかいを感じる心が頼りです。

乳幼児期の子どもたちの自然保
護教育が日常の風景となり、持続
可能な社会へつながっていく小さ
な一歩になればいいですね。

立田山しぜんたんけん (10月23日)



☆まきえ

☆清田

自然探検シート

(益田 勝行・立田山自然探検隊)